

滝川の防災機能と自然を大切に



新井賢次



町長

生かしていくべき地域である

質問 滝川は河川内に大量の土砂が堆積し、そこに樹木・雑草が繁茂して流下量を大きく阻害している。近年、気候変動による自然災害、特に集中豪雨による甚大な被害が各地で頻発している。

回答 河川内の整備について、管理者である伊勢崎土木事務所と早急に対応を講ずるべきだ。内水氾濫対策としても有効である。

質問 町長 「河川内の雑木等の伐採工事を、今年度は上茂木橋から下流部において発注している。上流部も適切に行っていく方針である。堆積土は状況調査を行い、堆積率が20%を超えると浚渫等を行う方針である」以上のとおり伊勢崎土木事務所から聞いている。

質問 天狗岩用水が世界かんがい施設遺産の候補となっている。既に国内審査を終えており、12月の国際会議で登録の可否が発表される予定だが、滝川全域も範囲に入るそつである。

回答 7月末をもって上陽地区にある玉村内科クリニックが閉院となった。長年地域医療を支え、多くの住民が通院してかかりつけ医として信頼されてきた。地域にとっては医療環境の脆弱化が心配されるが町の見解は。また、今後の課題として多くの高いハードルはあるが、医師の招聘や医院の誘致等の考えはあるか。



堆積土に樹木・雑草が繁茂し流れを阻害している

登録が認められればたくさんの方が訪れてくるかもしれない。伊勢崎土木事務所と連携を深め、河川内及び町道、遊歩道周辺の整備に町として積極的に取り組むべきだ。

回答 町長 将来的には上流部左岸側に遊歩道の整備が計画されており、事業化されれば滝川周辺の環境整備が充実するものと考えている。

質問 防災と自然保護の観点から、今まで以上に注力すべきだ。

回答 町長 防災及び魅力づくりの観点からも、今後生かしていくべき地域であると考えている。

町民とのコミュニケーションを

質問 コロナ禍で、町行政の目指す方向を町民に届けることが難しい状況にある。「共に歩みを進めながら、今後も持続可能で魅力に溢れ、元気を生み出す町づくりをしていきたい」という町長の言葉を裏付けるために、年に一度、町政運営の方針である施政方針の全戸配布を考えたかどうか。

回答 町長 長々とした言葉ではなく、いくつかにまとめて発信していくことを、一つの提案として考えたい。

こんな質問もしています

・ 新型コロナウイルス感染症対応について
・ 町役場における現金紛失について

医師・医院の誘致で地域医療を守れ



柳沢浩一



町長

誘致は考えていない

質問 7月末をもって上陽地区にある玉村内科クリニックが閉院となった。長年地域医療を支え、多くの住民が通院してかかりつけ医として信頼されてきた。地域にとっては医療環境の脆弱化が心配されるが町の見解は。また、今後の課題として多くの高いハードルはあるが、医師の招聘や医院の誘致等の考えはあるか。

回答 町長 玉村町を含む伊勢崎保健医療圏は高齢化率や人口減少率が県内で最も低く、医師数においても、多数地区でも少数地区でもなく、医師の確保ができていく地域である。また、当町は伊勢崎市以外の近隣市で医療を受ける機会も多く、受診困難な状況は少ない地域と認識しており、医師や医療機関の誘致は考えていない。

質問 私は上陽地区における影響について質問している。閉院により深刻な思いを抱



長年地域医療を支えた玉村内科クリニック

いている人も多い。病院誘致の考えはないとのことだが、既に用途が決まっているのではないか。

回答 町長 当町だけではなく日本中でイベントや行事の中止を余儀なくされてきた。このような状況下でも開催に向けてぎりぎりまで検討を重ねてきたが、断腸の思いで中止した。私もイベントの中止等が町内経済に影響を与えていると認識している。その上で、今までどおりの開催方法に固執することなく、開催の可否については、国や県のガイドラインに則した上で、各事業の感染リスク等を踏まえて総合的に判断していく考えである。

コロナ禍でのイベント開催の判断は

質問 新型コロナウイルス感染症の影響により、町のあらゆる会議やイベントが中止と

こんな質問もしています

・ 内水氾濫への対応について